

## 研究室紹介

# 奈良県農業研究開発センター 果樹・薬草研究センター

奈良県では、中南部の五條吉野地域を中心に果樹産地が形成されており、主要品目であるカキは全国2位の結果樹面積（1,760 ha、令和5年度作物統計調査）となっています。また、五條吉野地域ではほかにウメが多く栽培されており、県北西部ではブドウ、日本ナシ、イチジク等、県中部ではミカン等も栽培されています。

果樹・薬草研究センターは、奈良県農業研究開発センターの出先機関の一つです。産地の課題に即応できるように、1994年に果樹産地の中心である五條市に設置されました。また、2014年には、本県で古来より生産されていた薬用作物を振興するための研究業務が新たに加わり、現在に至ります。約4.3 haの試験圃場を有しており、カキをはじめとした各種果樹品目と、ヤマトウキをはじめとした各種薬草品目が栽植されています。なお、カキについては約200の品種を収集した品種見本園を有しており、新品種育成などに活用しています。人員としては、所長以下、研究員5名、技能員2名および会計年度任用職員4名が試験研究および圃場管理業務に従事しています。

また、全国的にも珍しいカキをテーマとした「柿博物館」が併設されています。巨大なカキ果実を模した外観も相まって人気の観光スポットとなっており、2024年6月に累積入場者30万人を達成しました（図-1）。

以下に、現在取り組んでいる病害虫関連業務について紹介します。

### 1 主要病害虫の発生予察

センターの研究員が県内のカキ、ウメおよびナシ生産圃場を巡回し、主要病害虫の発生状況を調査しています。また、多発生時に甚大な被害を及ぼす果樹カメムシ類に関しては、予察灯への誘殺数調査、野外巡回による



図-1 果樹・薬草研究センター全景（左）と柿博物館（右）

スギ、ヒノキ毬果への寄生状況調査および落葉下での越冬個体数調査を実施しています。なお、これらの調査により得られた情報は、病害虫防除所より発出される発生予察情報に反映させるとともに、果樹カメムシ類に関しては生産者メーリングリストを活用して、迅速な情報提供に努めています。

### 2 カキ炭疽病の防除対策

炭疽病は、枝や果実に黒色病斑が現れるカキ主要病害の一つで、近年産地での発生が増加しています。収穫直前の果実が被害を受けるため収益への影響が大きく、問題となっています。そこで、定期的な現地調査や生産者への管理履歴の聞き取り調査を通して、多発生要因の解明に取り組んでいます。また、感受性検定試験などにより、各種薬剤の効果について



図-2 カキ炭疽病被害果実の様子

### 3 果樹カメムシ類発生予察の効率化

前述のとおり、果樹カメムシ類の発生予察は非常に重要な業務となっています。しかし、予察灯の誘殺数調査においては、一晩で数百頭の個体が誘殺されることがあり、計数調査に時間を要します。また、現在光源としている水銀灯が生産終了に伴って入手できなくなることも課題となっています。そこで、AI技術を活用した画像からの果樹カメムシ類判別技術の開発や、LED灯を用いた代替光源の検討に取り組んでいます（図-3）。

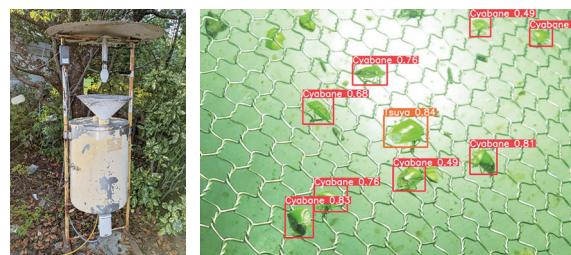


図-3 果樹カメムシ類予察灯（左）と画像判別の例（右）

（総括研究員 米田健一）